

●誌上教材研究 その5

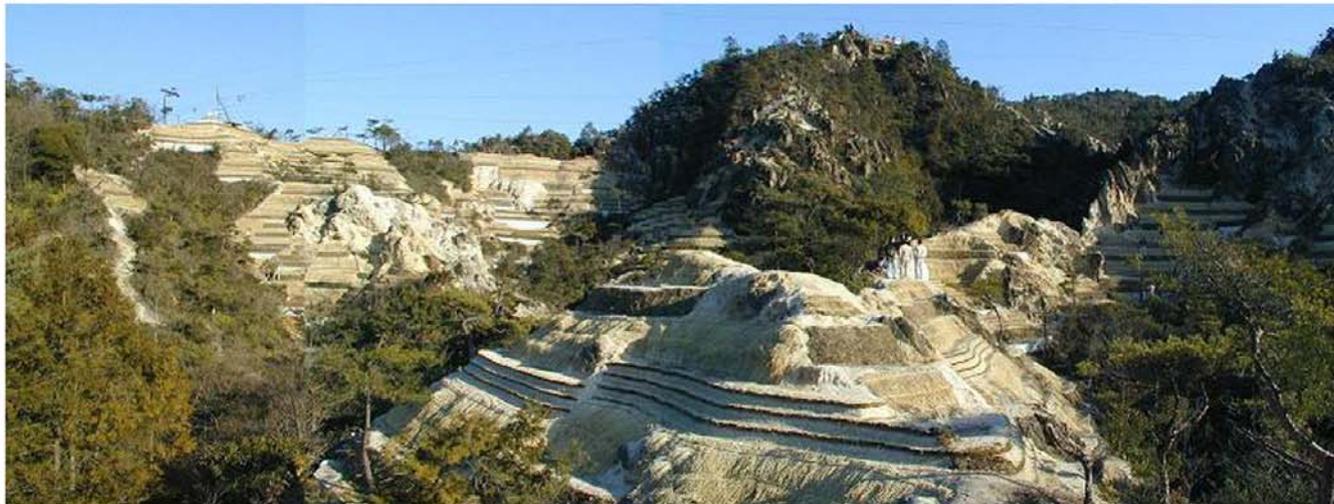
小学校教師による、小6社会科“奈良の都”の教材研究 — 1枚の写真を通して

たな かみ やま 東大寺大仏殿と田上山

作成：立花禎唯（たちばな よしただ／大阪府高槻市立松原小学校 教諭）

寸評：山下宏文（やました ひろぶみ／京都教育大学 教授）*

▼山腹工事中（平成12年）の田上山の様子（写真提供：国土交通省近畿地方整備局琵琶湖工事事務所）



「奈良時代になると、奈良の都には座高約16mもある大仏が造られました。少し遅れて、大仏より大きなものが造られたのですが、何かわかりますか。それは大仏を納める大仏殿です。江戸時代に再建された現在の大仏殿も世界最大の木造建築ですが、奈良時代の大仏殿はそれよりもずっと大きな建物でした。柱だけでも直径約1.5m、長さ約30mという木材が84本も必要でした。

大仏殿をはじめ、東大寺や都の建設には驚くほどたくさんの木材が集められました。近江国（滋賀県）の田上山からもたくさんの木材が奈良の都に送られました。都に入る直前の奈良坂は人の力で陸路を運びましたが、そのほかは川を利用して都まで運びました。

鎌倉時代に大仏殿を再建するときの木材は周防国（山口県）から調達したことからわかるように、

しだいに田上山の木材は利用し尽くされ、室町時代の終わりころまでには、はげ山になっていたようです。

山に木がなくなると、どんな困ったことが起きるのでしょうか。木に覆われているときと違って、雨が降れば山の土や砂が流されてしまいます。田上山のふもとの大戸川から瀬田川に流れ込んだ土砂は、瀬田川の流れを悪くしました。そのため、下流の宇治川や淀川の近くに住む人たちが水害で悩むことになりました。

明治に入り、オランダの技術者によって土砂が川に流れ込まない工事もしましたが、根本的には森林を回復しなければ問題は解決しません。山腹工事と呼ばれる方法で、百年以上もかかって、ほぼ森林を回復することができました。この写真はその工事の様子です。」

○意図（立花）：現行教科書のすべてが東大寺の大仏を取り上げているが、なぜか大仏殿に言及したものは少ない。ここでは東大寺の大仏殿造営を取り上げ、田上山の木材が利用されたこと、そのことによって森林が荒廃したことを子どもたちにつかませたい。森林荒廃による被害と造林による森林の回復を歴史学習の中に組み込むことによって、歴史の中での環境の問題を考えさせたい。

○寸評（山下）：歴史学習において、「森林や林業」が扱われることはほとんどない。しかし、歴史学習が単に「政治史」だけを扱っていけばよいわけではなく、「文化史」も重要な内容となっているのであるから、わが国の「文化」が「森林や林業」と切り離されてしまっていることに問題を投げかけなければならない。小学校の歴史学習は、「人物の働きや代表的な文化遺産」を取り上げて、わが国の歴史に対する理解と関心を深めようとしている。本教材は、この「文化遺産」と「森林や林業」を結び付ける具体例を提示してくれている。

* 〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1 TEL.075-644-8219（直通） E-mail: mountain@kyokyo-u.ac.jp